

文-34

Vたいです

Vたい です

V:Vます

基 本

例 文

- ① わたしは こんど やす とも りょこう 今度の休みに友だちと旅行し
たいです。
- ② こんばん い 今晚どこへも行きたくないです。
- ③ A: しょうらい なに 将来、何になりたいですか。
B: にほんご せんせい 日本語の先生になりたいです。
- ④ A: おんがく き どんな音楽を聞きたいですか。
B: にほん おんがく き 日本の音楽を聞きたいです。

解 説

- A. Vは、「行きます い 行き」のように「Vます」から「ます」をとった形。かたち
- B. 「たい」は活用する。活用形はイ形容詞と同じ。かつよう かつようけい けいようし おな
- C. 話し手の希望や要望を表す。(例文①②③④)はな て きぼう ようぼう あらわ
- D. 「Vたいですか」で、聞き手の希望や要望をたずねる。(例文③④)き て きぼう ようぼう

先生へ

直接的、生理的欲求などの場合、対象を示す「を」は「が」に代わることがある。

例1 (暑い日に、走ったあとで)

水が飲みたいです。

2 A: 何が食べたいですか。

B: そうですね。サンドイッチが食べたいです。

「Vたいんですが」を使って、婉曲的に要望を表したり、許可を求めたりすることができる。

例1 A: すみません、山田先生と話したいんですが。

B: はい、ちょっと待ってください。

2 A: 先生、お手洗いにいきたいんですが。

B: はい、いいですよ。

あまり親しくない相手や敬意を表すべき相手に対して、要望を聞くと、「～たいですか」は使えない。

願望の対象がものときは、「Nがほしいです」を使う。

「Vたいです」は、2人称や3人称の人の願望を表現することはできない、また、直接的な欲求表現で、相手や状況によっては使えないので、練習のとき注意すること。

【関連項目】

文-09 Nがほしいです

【「れんしゅう編」の練習】

10-5 手紙をください

10-8 わたしの将来